



一人一人が輝くために

＜いばらき教育プラン＞
一人一人が輝く教育立県を目指して
(H28年度～)
＜茨城県の教育目標＞
○ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
○しょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
○郷土を愛し協力しあう心を育てる

＜本校の教育目標＞
夢や目標に向かって頑張る、
心豊かなたくましい生徒の育成
～自分で考え行動できる生徒～

＜ひたちなか市教育目標＞
夢、感動、笑顔がひろがる
教育のまち ひたちなか
○ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかいます
○しょうぶな身体をつくり たくましい心を養います
○家庭や地域と力をあわせ、豊かな心を育みます
○ふるさとを愛し 協力しあう心を育てます
○世界に視野を広げ 国際人としての自覚を高めます
※本市学校教育推進のためのキーワード
夢 感動 笑顔

＜求める学校像＞
「今日が楽しく、明日が待たれる
心の居場所がある学校」
○生徒が生き生きと楽しく学べる学校
～学ぶ喜びに「行きたい学校」～
○教職員・生徒・保護者・地域等が
共にある学校
～安心して「行かせたい学校」～

＜求める生徒像＞
「心豊かで、自ら学び、自己実現に励む生徒」
お 思いやりと優しさに満ちあふれた生徒
お おおらかに、広い心と礼儀正しい生徒
し 使命感に燃え、実行力のある生徒
ま 学ぶ意欲を高め、
根気強く最後までやり抜く生徒

＜求める教師像＞
「夢を抱き、生徒と共に成長し、
信頼され尊敬される教師」
○情熱と使命感にあふれる教師
○常に自己研鑽し、指導力を高め、高い
専門性と豊かな人間性をもつ教師
○夢をもち、夢を語ることでできる教師
＜情熱・力量・人間力＞

スクールマニフェスト

- 授業改善を進め学力向上に努めます。
①県学力診断テストで前年度より+2ポイント ②家庭学習に毎日取り組む生徒95% ③年間読書30冊以上が80%
- 心の教育を推進します。
①いじめ重大事態と未解消ゼロ ②「基本的な生活習慣等ができています」と答える生徒90%
③「学校が楽しい」と答える生徒90% (魅力ある学校づくりとして)
- 安心安全な学校・体力の向上に努めます。
①体力テスト(A+B)60%以上 ②朝食摂取100% ③誤食事故、交通事故ゼロ
- 保護者の皆様との連携に努めます。
①授業参観・学校行事への保護者参加率70%

本年度の重点課題及び努力事項

＜わかる・できる喜びを＞	＜豊かな心の育成を＞	＜たくましいからだづくりを＞	＜生きる喜びの実感を＞
<ol style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着 ○体験的な学習や反復学習の実施 ○効果的な個別指導, 少人数指導 ○家庭学習の習慣化 ○「学びの5か条」の定着 授業改善 ○新学習指導要領の確実な実践 ○授業の工夫・改善 ・課題と評価の提示 ・ICTの活用 ・効果的な「学び合い」の場の設定と表現活動の充実 単元を単位とした評価計画 継続性を重視した教科経営 ○小中連携による学力向上対策 ○キャリア教育の充実 読書活動の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 思いやりの心の育成 ○道徳の時間を要とした全教科領域を通じた心の耕し ○体験活動, ボランティア活動, 行事への積極的な参加 明るい集団づくり ○互いに認め合い, 支え合う人間関係づくり ○所属感や存在感が実感でき笑顔を生み出す学級経営 基本的な生活習慣の確立 集団を高めるリーダーの育成 生徒理解の推進 ○組織的生徒指導体制の構築 ○客観的な生徒理解の充実 ・Q-U,生活アンケートの活用 小中間の情報の共有 	<ol style="list-style-type: none"> 体力の向上 ○保健体育の授業の工夫改善 ○部活動への積極的な取組 ○休み時間の運動の奨励 自己管理能力の育成 ○基本的な健康管理意識向上 ・感染症予防対策の励行 ・「早寝早起き朝ご飯」の推進 食育の充実 ・バランスのよい食事の推進 ・食物アレルギーへの対応 危機管理意識の向上 ○安全教育の充実 ○危機管理の確認と予防 ⇒危険箇所の把握・対応 	<ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実 ○ニーズに応える支援 ○個別の支援計画に基づく共通実践と理解促進 保護者の思いの共有 ○小中間の情報の共有 ○校内支援委員会の充実 ○交流学級での協力推進 ○特支学級間の交流推進 長欠対策 ○長欠対策委員会の開催と支援計画作成・実施 関係機関との連携・情報の共有 SDGsへの意識向上 ○「共に生きる」の実践と理解への関連付け

組織目標

- ICT機器を積極的に活用し、魅力ある授業づくりを行う。
- 働き方改革の推進
○定時退勤日を設定し、月の在校当時間を45時間以内にする。

＜職員研修の充実 ～教育公務員としての「意識向上」を～＞
○ICT機器(タブレット、デジタル教科書、電子黒板)効果的な活用
○教員評価、研修を生かした教師の指導力の向上と学校の活性化(研修: 服務規律の確保、ソフトウェア、体罰防止等)
○授業の工夫改善、危機管理の高揚(研修: 学習の流れが分かる授業、課題と評価の提示、話し合いの場の設定、危機管理)
○一人一授業公開、校内研修の定期的開催、他校や研修会等への積極的派遣

＜働き方改革の推進 ～生徒と関わる時間の確保と教職員の心身の健康維持のために～＞
○教職員一人一人の意識化の徹底・・・超過在校等時間月80時間ゼロ、月45時間以内の達成
○月2回の部活動休養日、月3回の定時退勤日の設定、
○校務用PC、C4thの有効活用(ペーパーレス化、会議の効率化)

＜開かれた学校 ～保護者・地域との心の触れ合う連携、協力体制の構築のために～＞
○積極的な情報提供(学校だより、学校ホームページ等) ⇒定期的なアンケート調査と結果の公表
○学校・保護者・地域との連携 ⇒コミュニティスクール(学校運営協議会の開催)の推進、教育ボランティア、外部指導者の活用

＜服務規律の確保に向けた取組 ～信頼される教師であるために～＞
○ボトムアップを中心としたコンプライアンス研修の定期的開催、教員評価にコンプライアンスの項目を設置、同僚性の高い職場環境の創造